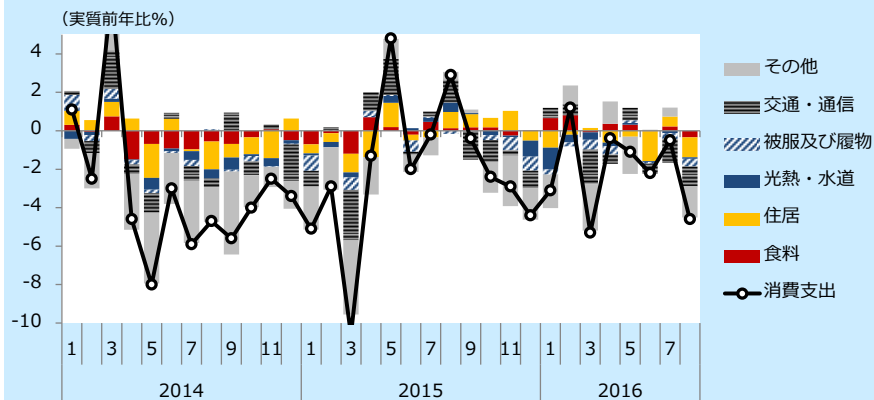


日本：家計調査報告（2016年8月）

— 台風の影響もあり消費が下振れ —

MRI Daily Economic Points
September 30, 2016

図表 実質消費支出



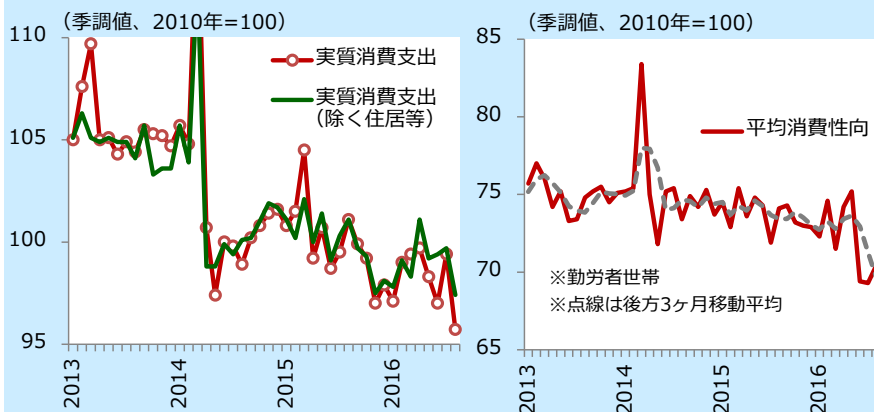
評価ポイント

2016年8月の結果

- 2016年8月の消費支出（二人以上の世帯）は、実質前年比で▲4.6%と6ヶ月連続の減少となり、前月（同▲0.5%）からマイナス幅が拡大。季節調整値では、実質前月比▲3.7%と、2ヶ月ぶりに減少に転じた。
- 品目別では、住宅と交通・通信が大幅に下落した。住宅は、8月は相次いで上陸した台風の影響などから住宅設備関連の修繕サービスが大幅に減少し、実質前年比▲16.8%（寄与度▲1.04%p）となった。交通・通信は、実質前年比▲7.3%（寄与度▲1.03%p）となった。自動車購入、自動車等維持（ガソリン等）がマイナスに寄与した。
- 猛暑による夏物消費の増加も期待されたが、8月の気温は北海道を除けば平年をやや上回る水準にとどまったほか、台風の影響もあり、夏物消費は盛り上がりに欠ける結果となった。飲料こそ前年比プラスを維持したものの、エアコン（実質前年比▲40.8%）や被服・履物（同▲12.9%）などが大幅なマイナスとなった。
- また、交際費や諸雑費が含まれるその他消費支出が実質前年比▲4.9%（寄与度▲1.11%p）と大幅に減少。勤労者世帯の平均消費性向（季調値）は年央から低下傾向にあり、消費者の節約志向の根強さを示している。

図表 実質消費支出（季調値）

図表 平均消費性向



基調判断と今後の流れ

- 消費は緩やかながらも持ち直しの動きがみられていたものの、天候不順の影響もあり、足元は大きく減少した。
- 9月も天候不順が続いており、消費の下振れ要因となる可能性がある。ただし、消費の基調としては、雇用・所得環境の改善が若年層を中心に消費の下支え要因となることから、16年度末にかけて極めて緩やかながらも持ち直しの動きが続くと予想する。
- 先行きのリスク要因としては、一段の円高・株安進行が消費マインドを悪化させる可能性が挙げられる。米国の利上げや大統領選、中国経済の成長下振れなどがそのトリガーとなる可能性があり、注意が必要である。